

救荒植物中の Vitamin 含有量(1)

藤田 秋治

(北里研究所生化学室)

今日の時局下に於ては救荒植物中の Vitamin 含有量の調査を行つておくことも必要である。ここには最近筆者の研究室に於て行はれた成績を表示する。定量した Vitamin の種類は Vitamin A, B₁, B₂, C であ

表 1 測定時日：昭和17年4月より5月まで。

種類	組織	含水量 (%)	Vitamin 含有量 (mg%)					C	
			α -Carotin	β -Carotin	B ₁	B ₂	選	總	
ナズナ	葉及莖	77.6	0.19	1.41	0.164	0.278	33	63	
スイナ	葉	90.6	0.09	1.24	0.112	0.118	30	32	
ワラビ	嫩葉	87.0	0.004	0.10	0	0.090	0.04	6	
	莖	92.2			0	0.106	0.04	14	
アザミ	葉	91.2	—	—	0.074 ¹⁾	0.075	3.3	10	
オホバコ	葉	87.0	0.11	2.13	0.138	0.157	0 ²⁾	69 ²⁾	
タンボウ	葉	88.7	0.11	1.10	0 ⁵⁾	0.108	13	26	
ユキノシタ	葉	90.8	0.09	1.17	0 ⁴⁾	0.045	— ¹⁾	10	
フキ	葉	88.7	0.02	0.57	0.052	0.107	8	21	
	莖	94.5	—	—	0.017	0.021	1.6	1.7	
セリ	葉及莖	85.2	0.02	0.50	0 ⁴⁾	0.066	— ¹⁾	13	
ヨモギ	嫩葉	84.2	0.12	1.45	0.156	0.142	3.2 ²⁾	17	
ヒガンバナ	鱗莖	65.0	—	—	0.099	— ³⁾	13	12	
イタドリ	莖	91.2	—	—	0 ⁴⁾	0.048	3.7	7	
ハス	根莖	86.7	—	—	0 ⁵⁾	0.038	—	35	
ツクネイモ	根	73.9	—	—	0.156	0.020	3.3	3.5	

1) メタ磷酸浸出液は赤色が著しい、その爲測定値が不確實である。

2) 添加アスコルビン酸の再検出率が低い(約60-80%), 数字は再検出率を補正した。3) 盲螢光強く測定困難。4) 添加 B₁ 全く消失。5) 添加 B₁ 可なり消失。

1) 藤田：本誌。1, 9, 頁400。

[醫學と生物學・第1巻・第12號・頁556-557・昭和17年6月20日]

る。方法はすべて前報¹⁾に準ずる。測定はAは餘坂正宣、B₁は土肥圭三郎、B₂は太久保佐助、Cは沼田勇の諸君が擔當した。この表より明かなる如く Vitamin の給源として、やや注目すべきものもあるが、その含有量の微小なるものもある。殊に數種の植物にあつては添加した B₁ を破壊するもののあることが判つた。これはさきに貝類やエビ類に於て見たものと同様な現象であつて、この破壊物質については、なほ將來の研究を要する。また Vitamin C の比色的定量法の適用の困難なるものが二三の植物に於て見られた。また筆者等の B₂ 定量法で定量の困難なる場合が一例に於て見られた。

(受附：昭和17年5月23日)